a データベースリストにアクセスしてみよう

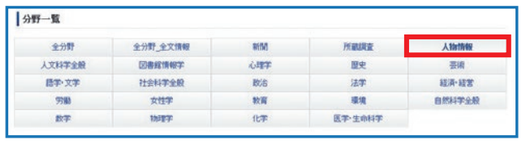
学習院大学で契約している様々なデータベースを活用しましょう。
データベースを使うと信頼性の高い情報が簡単に入手できます。

「データベースリスト」へのアクセス方法

1．GLIM/OPACにアクセスし、「学習院データベースリスト」をクリック

2．データベース一覧画面が表示されます。お知らせや注意事項は、その都度必ず確認してください。

3．調べたい分野のボタンをクリックすると、該当分野のデータベース一覧に移動します



4．使うデータベースが決まったら、データベース名称のリンクをクリックします。内容を確認する時は、詳細項目の「i」ボタンをクリックします。

COLUMN

なぜデータベースリストを使うの？

データベースリストに登録されているデータベースは、主に有料のデータベースです。（学習院大学で契約をしているので、学生の皆さんは無料で利用できます）

これらの有料データベースは、Google では得られない、専門的かつ正確な情報が検索できるので、非常に有用です。

誰でも入手できる Google 上にあふれる情報よりも、正確で専門性の高い情報を入手するため、データベースリストを使うようにしましょう。

マメ知識

データベース名で探したい時は
表示されているページの画面検索から探します。「CTRL」＋「F」キーを同時に押すと検索 Box が表示されるので、データベース名を入れて検索します。

5．データベースの詳細画面

①名称：データベースの名前です。学内PCから利用の際は、詳細項目のデータベース名をクリックすると、直接該当データベースのトップページにアクセスできます。

②概要：これを読んで、自分が知りたい内容が入手できるデータベースかどうかの判断材料としてください

③資料タイプ：検索対象の資料タイプを表します

④主な言語

⑤利用範囲：データベースが利用できる場所を表しています
（例 1）学内→学習院大学（目白キャンパス）内であればどこからでも利用できます
（例 2）無料公開→インターネット上で公開されているウェブサイトです。学内外問わず、どこからでも利用できます。
（例 3）学外→大学所属者のうち、利用の認められた方のみ学外から利用できます（P.26-27 参照）

⑥同時アクセス（利用）数：データベースを同時に使えるユーザー数です
（例 1）「4」→同時に利用できるユーザーは 4 人です
（例 2）「無制限」→同時に何人でも利用できます

⑦ログアウト要否：データベースの利用を終了するときの手続きについて表しています
（例 1）「必要」→データベース画面内の「ログアウト」等のボタンを押して利用を終了してください
（例 2）「不要」→ウィンドウ右上の「×」ボタンを押して利用を終了してください

⑧備考：利用上の注意点やマニュアルへのリンク等を表示しています

⑨接続：学外からデータベースを利用するときにクリックします（P.26-27 参照）